

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900345		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	阿児認知症対応型グループホーム真珠荘		
所在地	三重県志摩市阿児町鶴方小入口3503-10		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvoNoCd=2472900345-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 27 年 10 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元保養所を活用した施設のため、居室からはたくさんの緑を見ることができ静かな環境で過ごして頂けます。入居者が7名と少ないため、個々のご利用者様のペースを大切にしつつ個々で買い物に出掛けたり、外出するなどゆったりと生活して頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温暖で自然景観に恵まれた伊勢志摩国立公園内に立地している。リゾート地の立派な保養所をそのまま活用した建物は緑豊かな木々に囲まれ、1階はデイサービス2階がグループホームになっている。共有スペースや居室からは桜や金木犀・・・等、季節の移ろいを常に感じる事が出来る恵まれた環境である。保養所のままのバリアフリーの広い廊下は自然に歩行量が多くなり、日々のリハビリになっている。また利用者の手芸品を飾るなど、明るく和やかな雰囲気になるような工夫が随所にみられる。開設時にみんなで考えた「敬意をもって 個性をいかして ぼちぼちと」を理念として共有し、ケアの質の均一化の実践に取り組んでいる。昼食時『此処は毎日御馳走！』と話された利用者を見守る、職員の眼差しは優しく、家族からも感謝の声が多く届いている。優しい風が流れている穏やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設設立時より掲げている「敬意を持って、個性を活かし、ぼちぼちと」を念頭に、ご利用者が無理せず、ぼちぼちとご自身のペースで生活出来る様に支援させて頂いている。	事業所開設時にみんなで考えた理念『敬意をもって 個性を活かし ぼちぼちと』を常に念頭において、その方のペースで生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に会った際に挨拶させて頂いたり、地域の自治会へ加入し、地域行事や催し物へ参加することで地域との交流を図っている。	保養所や別荘地としての地域性もあり、神明自治会と賢島別荘地自治会の2ヶ所の自治会に参加している。回覧板がまわってきたり、多くの行事への声をかけてもらう機会も多い。志摩五町福祉祭りや地域の草刈りなど地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で催される「ふくし祭り」に協力し、地域の方々の相談や提案する機会や提案する機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や施設及び入居者様の現状報告し、ご意見や提案を参考にし、サービスに取り入れている。	2ヶ月に1回偶数月に運営推進会議を開催している。事業所からの報告や参加者から質問・要望・意見をうけ、地域の支援と理解を得る機会にしている。議事録もきちんと作成されている。コミュニケーションをとることで、多くの方々に事業所の応援団になってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所等で担当者の方に施設状況を相談・報告させて頂き、協力関係が築けるように努めている。	志摩市介護保険課や志摩市ふくし総合支援室とは情報交換やいつでも話し合うことが出来るように協力関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で毎月開催しているカンファレンス等でケア内容の確認を行い、拘束をしないケアの実践に努めている。構造上死角が多く、玄関を施錠しているが、ご利用者様の希望に沿って適宜外出の支援をさせて頂いている。	法人内での研修会を毎月開催しており、グループホームからも参加し、職員に伝達講習を行っている。また、職員自身が身体拘束と言葉の拘束の弊害を認識し、日々の言葉かけに留意し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で毎月開催しているカンファレンス等でケア内容の確認を行い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者の方はおられないが、今後対象者が入居される事も考慮し勉強会をする機会を作り個々職員が学ぶ機会を持つようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は契約書・重要事項説明書の内容に関して、その都度ご質問がないか確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行している新聞やケアプランを郵送や面会に来られた際に意見交換をさせて頂いたり、電話で相談するなどして事業運営の参考にしている。	利用者と職員が記載するスペースがある『ぼちぼちいこか』たよりを毎月作成して、現状を報告し、ホームを理解してもらいながら、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。家族からの要望や意見などには、些細なことでも速やかに検討し改善する体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される会議の場で意見交換しており、日々の業務中においても意見や提案を聴き、事業運営に反映している。希望に応じ個別面談を行っている。	月1回開催される会議の場で、意見や要望を言い易い雰囲気づくりに努めている。また広い保養所内には職員の休憩所もあり、職員同士や管理者ともいつでも話が出来るように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人諸規定(給与・服務規定)に基づく。年度初めには法人全体会議を行い、規定の変更や留意点に関する説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の各種研修に参加すること、介護現場での指導を通じて個々のレベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市サービス事業者連絡会へ参加することで他事業所と顔の見える交流を行い、その場で意見交換等を行うことでお互いのサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して施設生活を過ごす頂く為に不安・希望を確認させて頂き、不安な点はいつでも相談して頂ける関係が作れる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して施設生活を過ごす頂く為に不安・希望を確認させて頂き、不安な点はいつでも相互に相談して頂ける関係が作れる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をもとに、その方に最も適している支援サービスを受けて頂ける様に検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てを行うのではなく、可能な範囲で出来ることを行って頂き、ご利用者様に施設での役割を持って頂き、役割を職員と一緒にして頂くことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援等の個別対応の相談や受診の相談等を行い、ご家族様に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や知人の方が施設に面会に来て頂き、馴染みの関係が継続出来るように努めている。	広い畳敷きの各居室は家族の宿泊も可能であり、家族が訪問しやすい雰囲気づくりを工夫し、家族との絆を大切にしている。行きつけの美容院や地域のスーパーへの買い物など、人や場所の関係が途切れないようにしている。また、友人からのたよりや電話をかける支援なども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様の性格、気性等を把握するように努めている。また1対1もしくは複数人であったり、その場面事に合わせ職員が傾聴し、間に入ることで皆様が生活出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡し、関わりが途切れない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の大まかな生活の流れはあるが、その中でもご利用者様から希望ある際には職員間で相談し、希望が叶えられる様に努めている。	利用者と職員と1対1での作業時や近隣への散歩時に、利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、連絡ノートに記載して、全職員が共有し、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の記録に趣味や習慣等を記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今後も無理なく、現在の生活が続けて頂ける様、個々の過ごし方を観察、申し送り、カンファレンス等を通じて情報把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、合同会議での意見交換、受診時の主治医への相談、面会、電話でのご家族様への相談を行い、プラン作成に反映している。	カンファレンスを毎月開催し、利用者7名のモニタリングを全職員で行っている。それらを基に3ヶ月毎に見直しを行っている。また状態の変化に応じて主治医や家族の意見を入れてチームで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の過ごしの様子、日々の変化をカルテの記録、連絡帳に残すことで職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対してどのようにすれば、満たされるかを職員間、必要に応じて他事業所等で相談し、自事業所の出来る範囲内ではあるが支援出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへの買物、理容院への散髪、アリーナへの展示物観賞等への外出を通して地域との繋がりを大切にしながら楽しんで生活出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に施設協力医療機関の説明を行った上で、ご本人様やご家族様の希望される医療機関を受診されている。	グループホーム利用時に、本人・家族から希望するかかりつけ医の確認をとっている。希望のない方は協力医の健康診断など受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる症状等あれば、併設事業所の看護師に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、病院関係者と情報交換、相談を行うことでスムーズな医療連携が図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を頂いている。また、症状の進行等に合わせて、その都度ご家族様、医療機関と相談を行い支援の方向性を決めていく。	入居の際、『阿児認知症対応型グループホーム真珠荘重度化した場合における対応に係る指針』をきちんと説明し、事業所での対応が困難になった際の法人特養などの入所の説明も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での会議で緊急時の対応、連絡体制について確認。また、看護師より様々な症状について注意すべき点について確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難誘導訓練を行っており、年2回の訓練には消防署、自治会の方々等にも参加して頂き、有事の際の地域との協力体制の強化に努めている。	年二回消防署立ち合いのものと訓練と、毎月避難訓練を実施している。また地域の避難場所として志摩市と協定を結んでいる。(3日分の水・御粥・おむつ・・・等を用意している)	利用者一人ひとりの状態をふまえて、昼夜を通じて災害時の具体的避難策を検討され、確実な避難誘導ができるように、日々の職員役割分担を明確にされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議、合同会議において接遇研修を行い、ご利用者様に対する言葉使い、態度等について見直しを行うことで実践に繋げている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考えて、無理強いないケアを常に心がけている。語調や言葉かけが、利用者の誇りやプライバシーを傷つけることがないように笑顔で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が希望を話し易い環境作りに努めている。また、衣類や嗜好品の選択など生活の中で選んで頂く選択肢がある会話を通じて選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の声を聴き、日々の状態に柔軟な対応をとるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のこだわりを大切に、衣類の選択であったり、整髪、化粧などの整容をご自身でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の準備、片付けを一緒にして頂いている。また、おやつ作りを通して楽しんで頂いている。	業者より真空調理されたおかずの宅配であるが、オープンキッチンでの盛り付け風景や匂いや音などで五感を刺激して食事が楽しみなものになるように工夫している。また、朝食のパンの購入に出かけたり、家族からの夏みかんでジャムづくりやあられでかりんとうづくりなど、利用者と職員は楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が作成し、バランス良く摂取されている。また、咀嚼・嚥下の力加減に応じて副菜を刻んで提供している。水分補給は定期的にお茶、コーヒー等、OS1等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に促しを行い、見守り等で口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しつつ、個々に声かけ、誘導を行うことで排泄の自立へと繋げている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握して、さり気ない誘導でトイレでの排泄を大切にしている。トイレは3ヶ所設置しており、お気に入りのトイレを利用されている方の支援も行っている。夜間の安全確保の為ポータブルトイレが用意してあるが、とても清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の協力も得ながら、排泄チェック表に排便管理を行いつつ、集団体操などの体を動かす機会への参加、水分補給の促しを行うことで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設事業所と同じ浴場を使用しているため、午後から入浴をして頂いている。基本的な入浴日は決めているが、希望に応じて入浴日の変更を行っている。夜間、入浴は現在行っていない。	お風呂は大浴場(リフトがある)と個室がある。外気が入る窓があり、ゆったりと入浴できる造りになっている。週3回午後入浴になっているが、それ以外にも随時対応している。入浴剤などで入浴を楽しむことができる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活や体調に合わせて居室にて休んで頂いたり、食後に休んで頂いたりして身体を休める機会を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の説明書を確認することで内容確認を行っている。薬の内容変更があった際は、併設事業所の看護師に報告、介護員は連絡ノート等を使用し、情報共有を行い、記録を残すことで経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来る力に応じて役割を持って頂いており、個々の好みに応じた趣味の支援が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、理美容院、ご利用者様との買物、自宅等を通して外出を行っている。ご家族様の協力を頂きながら外出支援して頂いている。	季節毎のドライブを楽しんだり、地域の大きな遊園地に出かけている。自宅へ帰りたい方には散歩を兼ねて出かけたり、外出しにくい方には、広いテラスのベンチでの外気浴や野菜畑での水やりなど日常的に戸外に出かけられるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際はご利用者様にご自身で勘定をして頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて電話を掛けたり、定期発行している新聞にコメントを記入して頂き郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にしながらご利用者様と一緒に飾付の材料作成、飾付を行っている。また、エアコンや扇風機を使用することで温度管理を行っている。	一階の大きな窓のある明るい共有スペースには、懐かしい足踏みミシンが置かれたり、季節の壁飾りが飾られている。二階の共有スペースには多くの椅子が置かれ、お気に入りのソファなど居心地良く過ごせる工夫や配慮が随所にみられる。職員の声のトーンも適切で、利用者にとって安らぎの空間になるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様が集まる場所と、1～2名が外を眺めながら過ごして頂くスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器を持ち込んで頂き、自宅と変わらない環境で居心地良い生活が送れるよう支援していく。	居室入り口に、『まき・もくせい・さざんか・つつじ・さつき・けやき・もみじ』と掲げられた7部屋は全て和の設えである。畳敷きの広い部屋には、座敷机・椅子・掛け軸や仏壇など利用者の安らぎを得る様な馴染みのものが置かれ、本人が落ち着いて過ごせるための工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	元々、保養所であり、段差の多い施設のため、手すり、エレベーター、階段昇降機を設置している。シルバーカー等の活用もあるが、可能な限りご自身で移動し、生活して頂けるように工夫している。		